

< 杵築市 > 2019年度 学校評価の4点セット (自己評価・学校関係者評価)

学校名

杵築市立杵築中学校

3学期

学校の教育目標

志高く 本気で挑戦する生徒の育成 (1)基礎基本の習得と学んだことを活用する力 (2)自分の考えや意見等を持ち、多様な考え方を取り入れ、自分のものにしていく力 (3)学びの心を持ち、目標に向け自分を高めていくとする態度

実態 (課題)	学力状況	学習状況	体力の状況	いじめ・不登校の状況
	3学期の定期テストにおいては全教科で得点率40%未満の1・2年生の割合2.5%以下。12月実施の市学力調査においては偏差値51以上の教科は1年全教科及び2年国理、ほぼ50が社、50未満が数英という結果である。	授業で書くことを通じて「考えをもち、わかりやすく伝える」ことができるようになった生徒の割合8.8%。板書やノートで授業の振り返りができるようにした生徒の割合9.2%。	30年度全国体力・運動能力調査において全国平均を上回った項目数、男子7/24女子1/24。運動の愛好度は3学期で8.3%。	昨年度いじめ認知件数20、解消の状況にある。新2・3年生7名不登校。うち、ひまわり学級2名、別室登校1名。他に起立性調節障害2名。

授業改善計画に係るスケジュールおよび協議の場については、別途、校内研資料に示す。

重点目標 教育目標に向けて	担当	達成指標 目指す姿	重点的取組 (達成指標に向けて)		取組指標 誰が・何を・どのくらいの頻度で	取組状況の確認 (取組指標に対して)		達成状況の確認 (達成指標に対して)		考察・改善策 (取組状況・達成状況結果から)	
			授業改善テーマ 育てたい力・目指す授業	取組内容 具体的・日常的な取組		評価	根拠	評価	根拠		
学力・学習状況	佐藤・木村	24定期テストにおいて2%未満の生徒が実感の「学び」を実感する	「論理的思考力・表現力」を育む学びのある授業づくり [2年次テーマ] 「根拠をもって考える」「多様な情報から考えを生み出す」「要点を押さえ、筋道立てて説明・表現する」力を育てる。 その他の学力向上の取組	2年次テーマに関連した場面を組み込んだ授業を設計し、その活動を指導案等において明確にする。 授業時のメモ(ノート等)の習慣化を図る取組を行う。～要点を押さえたり箇条書きしたりする場を指導案等において明確にする。	教員はねらいの達成に結びつく「書く」活動を1時間の授業に設定する。 教員は毎時間(授業内容に応じ)「大事だと思ったこと」「わかったこと」「わからないこと」「自分の考え」等をノート等に「メモ」させる。～図、表を使う、大事な部分にアンダーライン等	A	書く活動を授業に取り入れるよう意識化は図れている。教職員アンケートでの実践の回答は8.6%で、2学期より4%アップ。	B	「大事だと思ったこと」「わかったこと」「疑問に思うこと」をメモさせるよう実践できた教員の割合は7.6%で、2学期より1%ダウン。	第2回杵築市学力調査偏差値(全国比) 1年 国語 数学 社会 理科 英語 2年 国語× 数学× 社会× 理科 英語× 全10教科中偏差値52以上が6教科、偏差値50以上が7教科。	第2回杵築市学力定着状況調査で、1年生は5教科とも偏差値52以上を達成できた。2年生は数学のみ偏差値52以上を達成した。2年生は流感等で休む生徒が20名ほどいたことが、成績に影響したと思われる。 4月の全国・大分県の調査では全教科偏差値51以上をめざし、学習内容の復習を重点的に行う。
体力	高倉・安藤	90%以上の生徒が運動が好きなことと身体を動かすのが好き	一校一実践	生徒の体力の課題に即したサーキットトレーニング 瞬発力、跳躍力、柔軟性や巧緻性等生徒の課題に応じたサーキットトレーニングを導入する。(運動部活動においても同様な取組を行う)	体育科教員は、生徒の課題に即したサーキットトレーニング設定、毎時間の授業ははじめに実施する。 <u>昼休みは外で活動するように、推奨する。</u>	A	2学期同様に毎時間の授業ははじめのサーキットトレーニング及び瞬発力・柔軟性を中心とした運動を取り入れた。	A	約92%の生徒が体を動かすこと、運動が好きと回答。2学期より5%アップ。	寒い時期ではあるが、昼休みにグラウンドで運動する姿をよく見かける。体育・部活、社会体育・休み時間などで運動に親しむ子どもを一人でも多く育てていきたい。	
德育・いじめ・不登校	藤原・高倉・羽田野	94%以上の生徒が学校が楽しいと感じている	未然防止 未然防止 早期発見 解決支援	「常に生徒の側にいる」教師たる行動をとる。 道徳科授業や学級活動の充実を図る。 生徒指導部会における気になる生徒の情報共有と関わりの確認。 生徒指導主事を中心にした動きの徹底とSCとの連携を深め解決策の徹底。	教員は、毎日、担任している生徒全員に声をかけ、生徒の様子を見取る。(担任以外の教員もこれに準じる) 毎日の「あったかハート」「ほっとハート」「にっこりハート」の徹底。 気になる生徒に対して、生徒指導主事とSCの面談を奨励し、心のうちを探る。 SCと連携し、解決に向けたケース会議を月1回もつ。	A A A A	9.6%の教員が1日1度は生徒とのコミュニケーションをとっていると回答。2学期と同じ。 アンケートでは2学期と同様に100%できているとの回答 教育相談コーディネーター・養護教諭を中心に気になる生徒にSCとの面談を奨励し、日常的に関わっている。 気になる生徒の対応について100%の教員がSCとの連携、ケース会議の活用をおこなっている。	A	約8.8%の生徒がアンケートにおいて学校が楽しいと回答。2学期より3%ダウン。	2学期よりさらに「ひまわり」に通所する回数が増えた。この子たちが学校に来る機会を増やすようコーディネーターを中心に取組を進めた。 3学期もこれまで以上に早期把握・早期対応・相談活動・カウンセリング・ケース会議などを密にしていることで新学年での不登校生・不登校傾向生の減少をめざしていきたい。	
担当	重点的取組										
家庭	保護者は、子どもの宿題等の状況や家庭学習時間を把握する。					週に1回以上家庭学習の内容を確認することがあると回答した保護者は、59%だった。2学期より微減であるが、子どもの家庭での様子を把握しようと積極性が話の中から受け取れる。					
地域	交通指導時の生徒との交流(挨拶等)を踏まえ、会議等において挨拶や登下校の状況について学校と適宜情報交換を行う。					月2回の登校指導や役員会で保護者・地域の方々との交流はできており、生徒の学校外での姿について適宜情報交換することができている。またスクールガード(P役員)に年間アンケートを実施し、気になることや次年度に引き継ぎたいことを確認した。					